

財務レビュー

経営成績の概要

2022年3月期における太陽誘電を取り巻く経営環境は、多くの国や地域において新型コロナウイルス感染症拡大防止のための厳しい行動制限に緩和の動きが見られる一方で、一部地域では大規模なロックダウンが実施されるなど、収束の兆しが見えない状況が続いています。世界景気は持ち直しに向かっているものの、地政学リスクの増大などによる原材料費、物流費の上昇などのリスク要因が顕在化しつつあります。先行きについては、景気回復傾向の継続が期待されますが、感染症の動向や国際情勢、各国の通商問題、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

太陽誘電は、中期経営計画2025に掲げた目標の実現に向けて自動車、情報インフラ・産業機器を中心とした注力すべき市場の売上比率を50％に高めることを目指しています。さらに、ハイエンド商品、高信頼性商品を中心とした高付加価値な電子部品を創出し、主力事業の積層セラミックコンデンサのさらなる成長に加え、インダクタと通信デバイスを強化してコア事業として確立していきます。また、需要拡大に対応するための継続的な能力増強に加え、環境対策やIT整備に向けた積極的な取り組みを実施し、5年間で3,000億円規模の設備投資を計画しています。

また、太陽誘電は、新型コロナウイルスの感染拡大に対しては、従業員や取引先をはじめとするステークホルダーの皆様の健康と安全を考慮し、BCP(事業継続計画)に基づいた各種対応策を実施しています。国内外の生産拠点においては、各国政府および自治体の指示や指導に従いながら、感染防止策を徹底した上で生産活動を継続しています。また、生産部門以外の従業員につきましては、各国政府および自治体の感染拡大防止に関する指示や要請に基づき、地域の感染状況に応じて在宅勤務などを実施することで業務の遂行と感染リスクの低減に取り組んでいます。

2022年3月期は、新型コロナウイルス感染症の影響により、第2四半期連結累計期間中にはマレーシアの生産子会社において稼働制限が生じましたが、自動車、情報インフラ・産業機器向けなどを中心とした需要拡大により、増収増益となりました。

これらの結果、2022年3月期の連結売上高は前期比

16.2％増の3,496億36百万円となりました。

なお、2022年3月期における期中平均の為替レートは1米ドル111.56円と前期の平均為替レートである1米ドル105.97円と比べ5.59円の円安となりました。

販売費及び一般管理費

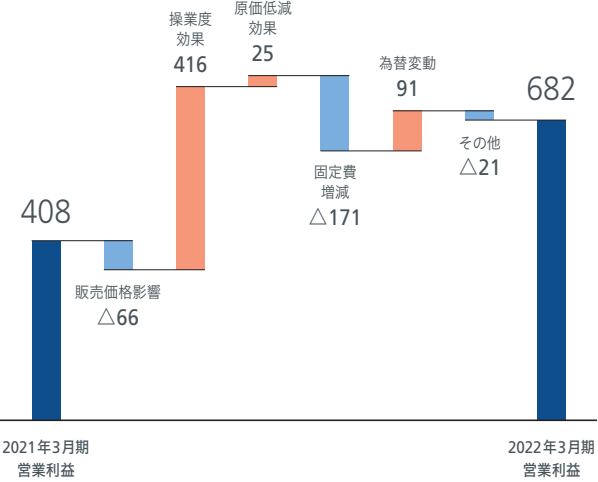
2022年3月期の販売費及び一般管理費は、567億63百万円となり、前期に比べ85億74百万円増加しました。販売費及び一般管理費の主要な項目は、研究開発費130億99百万円、従業員給料手当128億46百万円などになります。この結果、営業利益は前期比67.3％増の682億18百万円となりました。

営業外損益

2022年3月期の営業外収益は前期に比べ30億15百万円増加し、45億93百万円となりました。一方、営業外費用は前期発生した持分法による投資損失が当期は発生しなかったことなどにより前期に比べ4億77百万円減少し6億20百万円となりました。この結果、経常利益は前期比75.0％増の721億91百万円となりました。

2022年3月期営業利益増減要因

(億円)



特別損益

2022年3月期の特別利益は投資有価証券売却益4億97百万円などを計上した結果、前期に比べ98百万円増加し、6億89百万円となりました。特別損失は災害による損失などを計上したものの、前期と比較して減損損失が大幅に減少し、また当期は関係会社株式評価損や海外子会社の新型コロナウイルス感染症関連損失が発生しなかったことから、前期に比べて38億20百万円減少し、10億8百万円となりました。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比90.0％増の543億61百万円となりました。

財政状態の概況

資産

2022年3月期末における総資産の残高は4,745億22百万円となり、前期末に比べ698億79百万円増加しました。流動資産は450億8百万円増加しており、主な要因は、仕掛品の増加140億60百万円、商品及び製品の増加96億54百万円、現金及び預金の増加82億73百万円です。また、固定資産は248億71百万円増加しており、主な要因は、有形固定資産の増加257億63百万円です。

負債

2022年3月期末における負債の残高は1,742億35百万円となり、前期末に比べ135億34百万円増加しました。主な要因は、未払法人税等の増加81億64百万円、長期借入金の増加69億61百万円、短期借入金の増加17億円、1年内返済予定の長期借入金の減少94億26百万円です。

純資産

2022年3月期末における純資産の残高は3,002億86百万円となり、前期末に比べ563億44百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金の増加462億円、為替換算調整勘定の増加149億16百万円です。

キャッシュ・フローの状況

2022年3月期の営業活動によるキャッシュ・フローは673億15百万円の収入(前期比27.3％増)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益718億72百万円、減価償却費312億87百万円、棚卸資産の増加額242億14百万円、法人税等の支払額98億93百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは506億22百万円の支出(前期比19.9％増)となりました。主な要因は、固定資産の取得による支出515億51百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは147億11百万円の支出(前期は126億4百万円の収入)となりました。主な要因は、長期借入れによる収入110億円、配当金の支払額81億46百万円、長期借入金の返済による支出134億65百万円です。

以上の結果、2022年3月期末における現金及び現金同等物は、前期末に対して68億23百万円増加し、886億9百万円となりました。

2022年3月期末の外部からの資金調達は、短期借入金202億円、1年内返済予定の長期借入金40億35百万円、長期借入金487億49百万円からなっています。借入金は原則として日本において固定金利で調達しています。さらに、財務の安定性のため期間3年、300億円のコミットメントライン借入枠を設定しておりますが、2022年3月末現在未使用です。

太陽誘電は、健全な財務状態と営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力を有しており、太陽誘電の成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えています。